

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 6 月 18 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (6/18 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.0 m ³ /h	34.1	106.6 kPa abs	A系:0.00 vol% B系:0.00 vol%
		給水系：約 3.4 m ³ /h			
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 5.3 m ³ /h	47.5	6.11 kPa g	A系:0.35 vol% B系:0.35 vol%
		給水系：約 3.0 m ³ /h			
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 5.0 m ³ /h	53.0	0.25 kPa g	A系:0.18 vol% B系:0.17 vol%
		給水系：約 3.7 m ³ /h			

*:絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (6/18 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	23.5
2号機	循環冷却システム	運転中	25.0
3号機	循環冷却システム	運転中	24.1
4号機	循環冷却システム	運転中	32

*各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘヒドラジンの注入を適宜実施。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	→	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	6/16 15:12 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	6/10 8:26 ~ 移送実施中
6号機	6号機 タービン建屋	→	仮設タンク	6/18 10:00 ~ 16:00 移送実施

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (6/18 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	運転中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

*フィルタの洗浄を適宜実施。

- H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。
- H24/6/14 水処理設備の除染装置については、5/21より単独循環運転を実施しているが、本日6:58頃に「流量バランス異常」の警報が発生し、その後、協力企業作業員が監視カメラを注視していたところ、監視カメラの映像から漏えいが発生している疑いがあると判断したことから、同日8:14単独循環運転を停止。現場を確認したところ、12:20堰内の床面に水が広がっていることを確認。なお、漏えいは停止しており、漏れた水の堰外への流出はないことを確認(漏えい量は約3m³と推定)。また、漏れた水の核種分析結果は、ガンマ核種総濃度:4.8×10²Bq/cm³、Cs-134:1.8×10²Bq/cm³、Cs-137:2.6×10²Bq/cm³であり、除染装置の凝集沈殿装置の系統水と推定。詳細については継続して確認中。
- H24/6/15 現場調査を実施。廃液貯留タンクの液位計の健全性調査を行ったところ、不具合があることが判明。
- H24/6/18 漏えい箇所は廃液貯留タンク上面の配管貫通部の隙間であり、漏えい原因については、同タンクの液位計の指示値が瞬間的に低下し、その結果、同タンク下流側の配管の流量調整弁を閉める制御となって下流側に水が流れなくなったが、その状態で上流側からの流入が継続したため、同タンク内の水が溢れてしまったものと推定。今後、当該液位計の修理を実施する予定。

<5. その他>

- H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5、6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/3/6～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/3/14～ 港湾内の海底土拡散防止を目的として、固化土(被覆材)による海底土被覆工事の本格施工に着手。
- H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
- H24/6/18 9:00 頃 1号機取水設備付近において、土木工事(コンクリートの舗装を壊す工事)に使用されていたバックホウのアーム油圧部から油が漏れいしていることを、作業員が確認。漏れい量は約1～2リットル程度で現在漏れいは止まっている。なお、漏れた油については、一部、地面にしみ込んでしまったものの、拭き取れる部分については拭き取りを実施した。同日10:40頃、富岡消防署に連絡し、消防による確認の結果、12:30、危険物施設からの漏れいではないと判断。今後、原因調査を実施する予定。
- H24/6/18 9:54 5号機の補機冷却海水系について、6/18から6/28までの予定でストレーナ駆動部の修理のため、停止。これにより使用済燃料プール冷却系が停止するため、この期間中、使用済燃料プールの冷却は残留熱除去系により実施。その際、原子炉及び使用済燃料プールの冷却は残留熱除去系により交互に切り替えて実施するが、原子炉水温度は最大60℃程度、使用済燃料プール水温度は最大31℃程度と評価しており、温度管理の観点から問題はない。

以上